

コロナ禍における 自殺対策の取組と課題

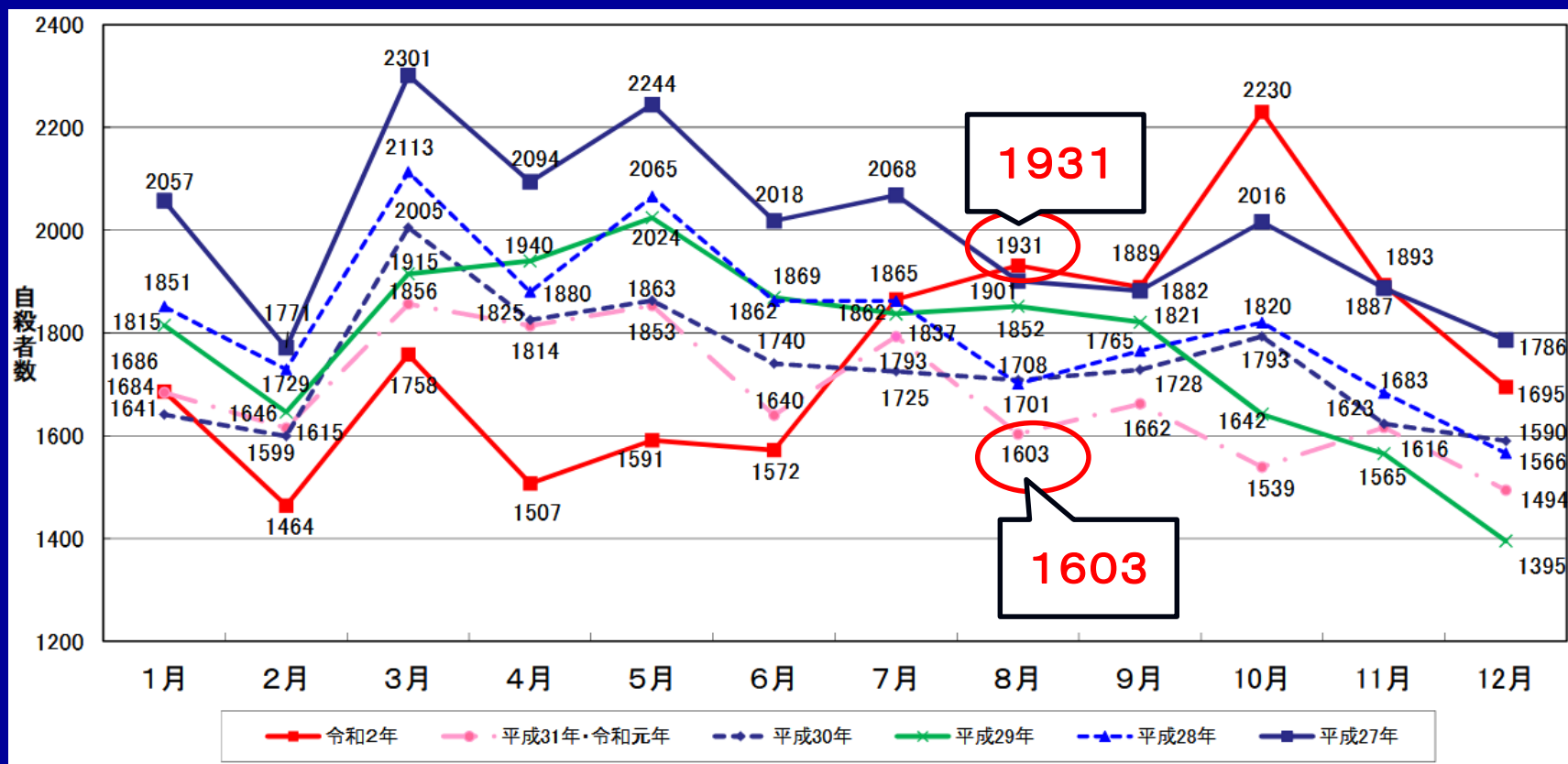
○黒木慶子¹⁾、岩田恵美子¹⁾、宮里瞳¹⁾、西田敏秀¹⁾、
杉尾重子²⁾、上谷かおり³⁾

(高鍋保健所¹⁾、宮崎県警察本部²⁾、都城保健所³⁾)

はじめに

全国の現状(月別)

● 令和2年8月の自殺者数
対前年度同月比 **+328人**

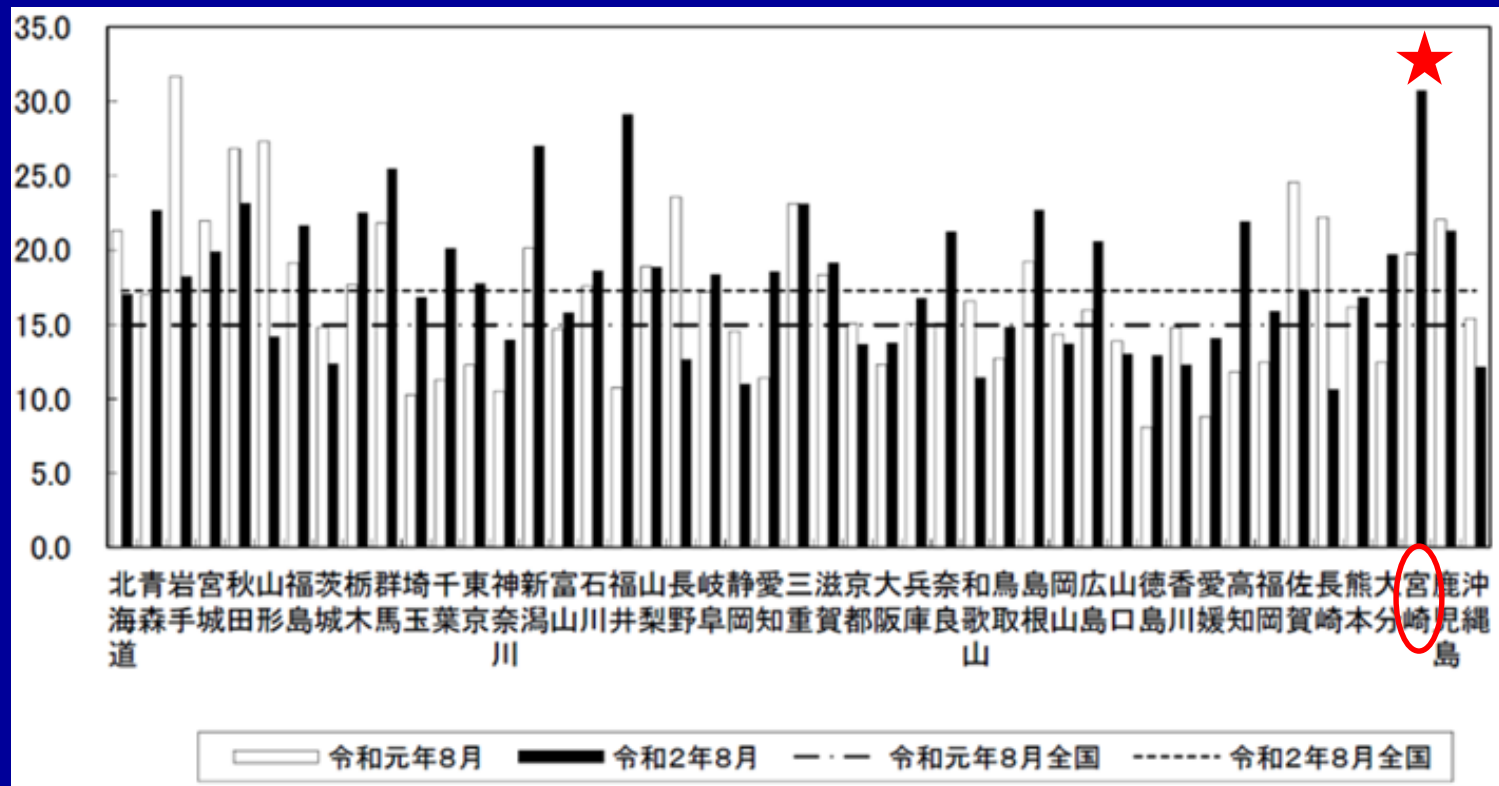


出典: 警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

はじめに

宮崎県の現状

- 令和2年8月の自殺者数
対前年度同月比 +9人
月別自殺死亡率 全国ワースト1位



はじめに

現状を受け

9月10日 厚生労働省より

「自殺対策への重点的な取組について(緊急要請)」

➡ 大臣メッセージ

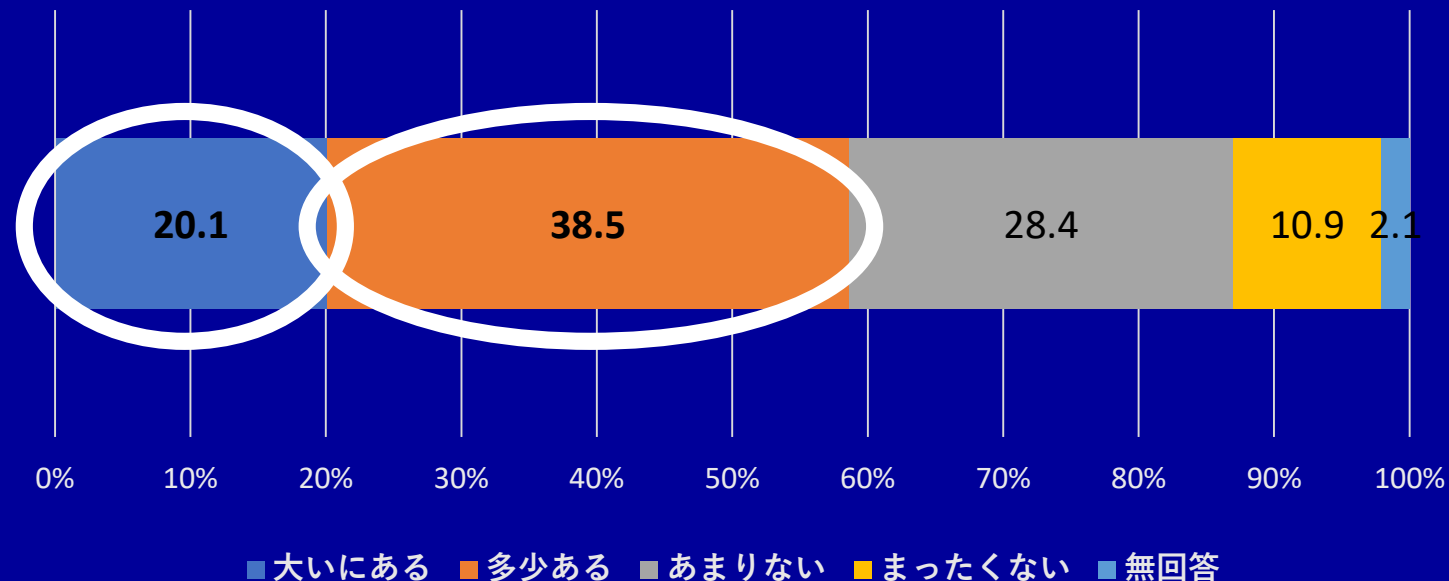
「生きづらさを感じている方々へ」

国民に対してひとりで悩みを抱え込まず、
相談をするよう促しあり

コロナの影響もあって
不安を感じている人が多いのでは？

はじめに

「こころの健康に関する県民意識調査」より
◎新型コロナウイルス感染症に関連した
こころの健康への影響



「大いにある」「多少ある」 計58.6%

はじめに

高鍋保健所のコロナ発生状況

- 7月に県内初となるクラスターが発生
住民のこころの健康への影響が懸念



コロナ禍における
自殺対策の取組と現状の調査を実施
今後の管内での取組の検討資料とする

調査方法

対象: 西都児湯地域自殺対策推進協議会委員 33名

時期: 令和2年12月

方法: アンケートを郵送し、FAXで回答

内容: ①新型コロナウイルス感染症に関する主な相談内容
②コロナ禍における自殺対策の取組
③新型コロナウイルス感染症に関連した自殺対策の課題

※①は選択肢形式・複数回答可 ②、③は自由記載

結 果

回収率: 32名 / 33名 (97.0%)

①新型コロナウイルス感染症に関する 主な相談内容について



1: 新型コロナウイルス感染症の感染に関すること(感染する不安、誰かにうつす不安 等)

2: 生活習慣の変化に関すること(外出の自粛、運動習慣の減少 等)

3: 経済問題に関すること(収入の減少、家計が苦しい、新たな借金 等)

4: 勤務問題に関すること(働き方の変化、解雇、休業 等)

5: 家庭問題に関すること(子育てや家事の増加 等)

6: 人間関係に関すること(友人・知人と過ごす時間の減少 等)

7: 学校問題(学習機会の減少、休校 等)

8: 「1」以外の健康問題に関すること(受診・通院を控える、体調がすぐれない 等)

9: 人権問題に関すること(差別、偏見 等)

10: その他

①新型コロナウイルス感染症に関する 主な相談内容について

その他「19.4%」の内訳

“相談を担う機関でない” 3機関

“コロナに特化した相談がない” 1機関

“コロナの影響で相談事業を
行うことができなかった” 1機関

看護部門

心身の健康に関する相談対応を行うことが多い部署

②コロナ禍における自殺対策の取組

24名より37の記述回答(複数回答あり・8名無回答)

大カテゴリー	主な意見
相談窓口の活用に関すること(9)	・悩みごと一斉相談への実施 ・相談窓口の設置・電話回線の増線
こころの健康づくりの普及啓発に関すること(7)	・ポスターやリーフレット等の備え付け・広報誌への健康情報の記載
関係部署との連携に関すること(5)	・必要に応じた保健センターや保健所などの関係機関との情報共有 ・自殺企図者発見時の支援機関の教示と情報提供
ゲートキーパーの育成・確保に関すること(4)	・相談援助技術を学ぶ機会の設置・会員同士でのコミュニケーションをとる機会の増加
精神科受診に関すること(4)	・心療内科や精神科への積極的な受診勧奨
所属者の健康管理に関すること(3)	・有休休暇の積極的取得
悩み事の早期把握に関すること(3)	・全戸訪問による状況把握・アンケート調査による悩みの把握
コロナ陽性者の人権擁護に関すること(2)	・感染者の特定や氏名の口外の自重 ・陽性者が不利益な取り扱いや差別を受けることがないよう周知

③新型コロナウイルス感染症に関連した 自殺対策の課題

14名より26の記述回答(複数回答あり・18名無回答)

大カテゴリー	主な意見
相談窓口の更なる周知に関すること(8)	・在宅勤務などの勤務形態の変化、収入減少、失業の不安など、ストレス増加に対する窓口支援
孤立者の把握や支援に関すること(5)	・外出自粛による孤立者の把握と支援 ・人との関わりが減少することで生じる孤立者の把握の遅延
感染者・家族への対応(4)	・地域住民同士の風評被害及び誹謗中傷類の防止 ・コロナに関連する偏見や差別の防止
相談対応者の精神面のフォローに関すること(3)	・相談員の確保と心身のケア体制の充実
コロナ終息に向けた支援に関すること(2)	・コロナの予防対策の正しい知識の普及
自殺対策支援の在り方の検討に関すること(2)	・参加者を確保するため、自殺対策防止の研修会を対面形式以外での実施検討 ・コロナにより住民に落ち込みがある中で、「自殺」や「死ぬ」等の言葉は刺激が強いとの意見があるため、啓発方法の検討
関係部署との連携に関すること(2)	・関係機関と連携した相談・支援

考 察

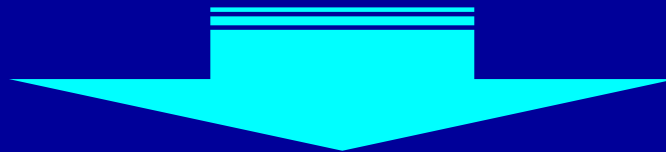
①相談対応について

現状における問題点

コロナにより

- ・対応可能な職員の確保に苦慮
- ・出張窓口の設置日の減少 等

“対面での相談業務実施に影響が出ている”



当事者らが
「SOSを出す機会」が減少しているのでは

①相談対応について

当事者らのSOSに反応するためには

①相談事業形態の工夫

- ・電話やSNSを活用した対面以外での相談事業

②相談窓口に繋がられる地域の体制づくり

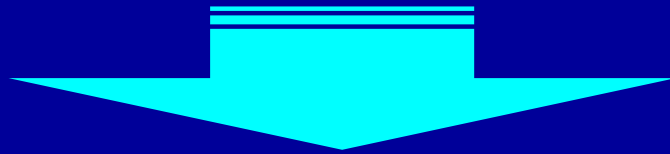
- ・ゲートキーパー養成講座
- ・ゲートキーパー講師養成講座

➡ 広対象者に向けて
ゲートキーパーの役割を周知する

②コロナ陽性者や家族のメンタルヘルス

現状における問題点

コロナ禍における自殺対策の取組にて
取組実施を挙げた委員・・・**2名のみ**



**コロナに関する社会的偏見により
陽性者であることを明かして相談しにくいのでは**

②コロナ陽性者や家族のメンタルヘルス

陽性者や家族のメンタルをフォローするには

①保健所職員における精神フォロー

↳ 陽性者の把握ができる限られた機関

- ・不安な気持ちへの寄り添い
- ・感染症に関する疑問の解決

②社会的偏見の防止

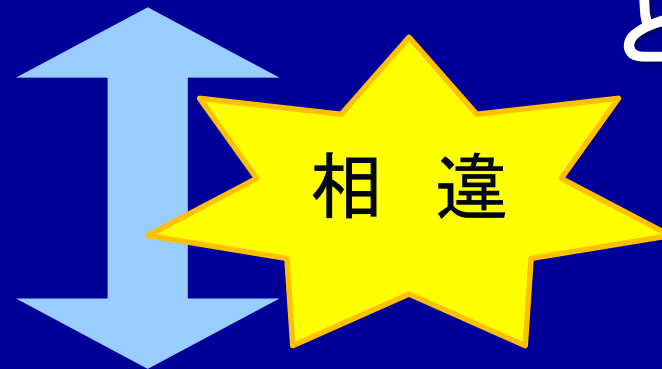
- ・コロナ予防の正しい知識

③自殺対策に関する正しい知識の普及

自殺対策の課題で

“自殺や死ぬ”という言葉は刺激が強い
という意見もあり、啓発に気を遣う

との回答あり



文献では

隠したてせずに自殺について語り合うことは、
自殺以外の選択肢や決心を考え直す時間を
与える

とされる

③自殺対策に関する正しい知識の普及

現状における問題点

自殺に関する正しい知識の普及啓発が
不十分な現状があるのではないかと

当事者らのSOSに反応するためには

- 地域の現状を共有する場の設置
- ・協議会や研修会の機会を利用